

『延喜式神名帳』に記された鹿島神宮に関わる考察
—鹿島神宮周辺の鹿嶋市内に残る地名の実踏調査をもとに—

2031015内野萌（新井ゼミ）

要約

茨城県鹿嶋市には、927年（延長5年）にまとめられた『延喜式神名帳』に日本三大神宮の1つとして数えられた「鹿島神宮」という神宮がある。「鹿島神宮」と鹿島神宮のある「鹿嶋市」について調査していくと、鹿嶋市には鹿島神宮に関連のある地名が点在していることが分かった。

『延喜式神名帳』で日本三大神宮と数えられていたのは「伊勢神宮」、「鹿島神宮」、「香取神宮」の3社である。しかし、その3つの社を現在の境内の広さから比較した際、伊勢神宮の5500haに対して、鹿島神宮は約70haと大きな差があることが分かった。

そこで、「鹿島神宮」に関連する、鹿嶋市内にある地名と神社・寺院について大野潮騒はまなす公園郷土資料館館長の汀安衛氏、鹿島神宮禰宜の天海尉之氏、鹿嶋市教育委員会社会教育課大根田綾子氏への現地取材を踏まえて実踏調査したところ、鹿島神宮の東西南北に設けられた「一之鳥居」の存在が明らかになった。鹿島神宮の現在の神域の広さを東西南北の一之鳥居内とすると、伊勢神宮の広さに匹敵することが分かった。さらに、鹿島神宮の歴史を調べると奈良・平安以降、各時代の権力者からの崇敬を受けていたことも明らかになった。

鹿島神宮が日本三大神宮の1つとして数えられていたのは、時の権力者からも崇敬を受けた東国一の神社であり、伊勢神宮にほぼ匹敵する広さを有するほどに権威が強かったためであると考えられる。